

総合科目 A

中田英寿選手と中村俊輔選手の パスデータによる試合分析

指導教員：西山 哲成先生

4年C組 00A0089 鎌田 豊

4年C組 00A0105 貴田 孝幸

4年C組 00A0109 久家 千明

[目的]

今、サッカーが日本で多くの関心を集めている。中でも、最も注目されているのが中盤 (MF) である。MF というポジションを簡単に説明すると、守備と攻撃の両方をこなす、スタミナがあり、ボールキープができ、視野の広い選手が向いているポジションである。本研究では、その MF の中でもトップ下・ゲームメーカー・司令塔と呼ばれているオフエンシブハーフのポジションである中田英寿選手 (現・セリエAボローニャFC所属) と中村俊輔選手 (現・セリエAレジーナ所属) のパスに注目して両選手の比較をしていく。

セリエAでファンタジスタと呼ばれている日本を代表する両選手のプレイスタイルの違いをパスのデータから推測する。

[方法]

被験者 : 中田 英寿 (ナカタ ヒデトシ)

現在、ボローニャFC (セリエA) 所属

1977年1月22日生まれ 身長175cm 体重72kg

中村 俊輔 (ナカムラ シュンスケ)

現在、レジーナ (セリエA) 所属

1978年6月24日生まれ 身長178cm 体重69kg

日時 : 2000年9月20日 シドニーオリンピック vs ブラジル

2003年11月19日 親善試合 vs カメルーン

実験用具 : 各家庭にあるビデオデッキ

実験内容 : 中田英寿選手、中村俊輔選手の出場した試合をビデオに録画して、主にパスのデータを記録して比較した。

実験方法 : 図1では、パスの方向・距離・角度をビデオを見ながら所定の用紙に書き込み、ワードに入力した。パス成功・失敗、シュート・FKに分け、攻撃方向は一様にした。

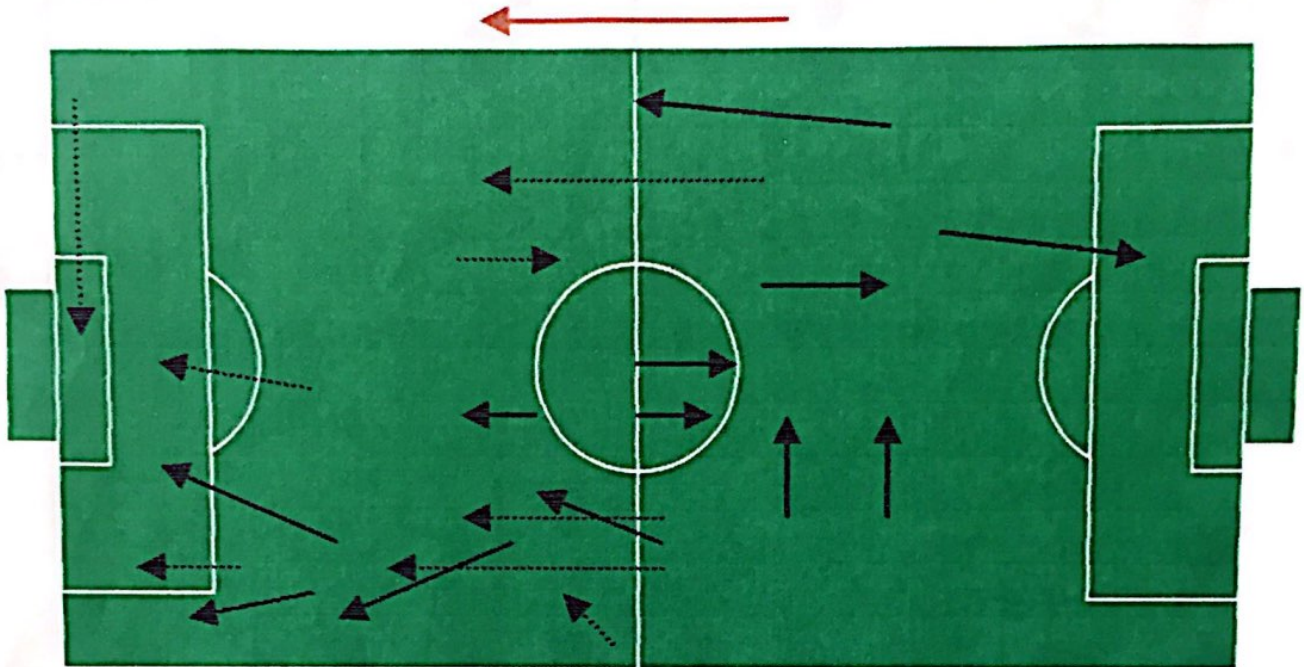
図2では、ピッチを12分割して、パスキャッチ位置を示した。中央ゾーンを分かり易くするために、中央ゾーンを広くした。

表は、個人データとチームデータを示した。個人データでは、総ボールタッチ数・パス (FW・MF・DF・GK) の回数・パスの総数・パス成功数・パス成功率・パスキャッチ数・ドリブル回数・シュート数を記録した。チームデータでは、シュート総数・コーナーキック・オフサイド・フリーキックの回数を記録した。

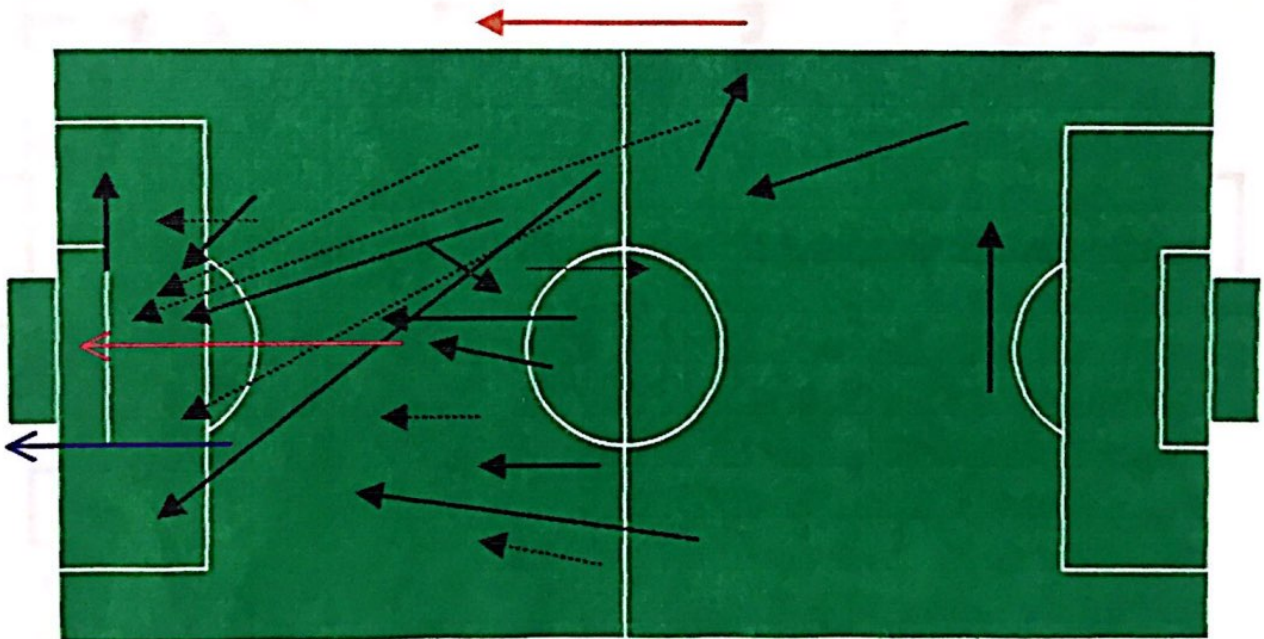
[結果]

図1 中田英寿選手パスデータ

《 前半 》



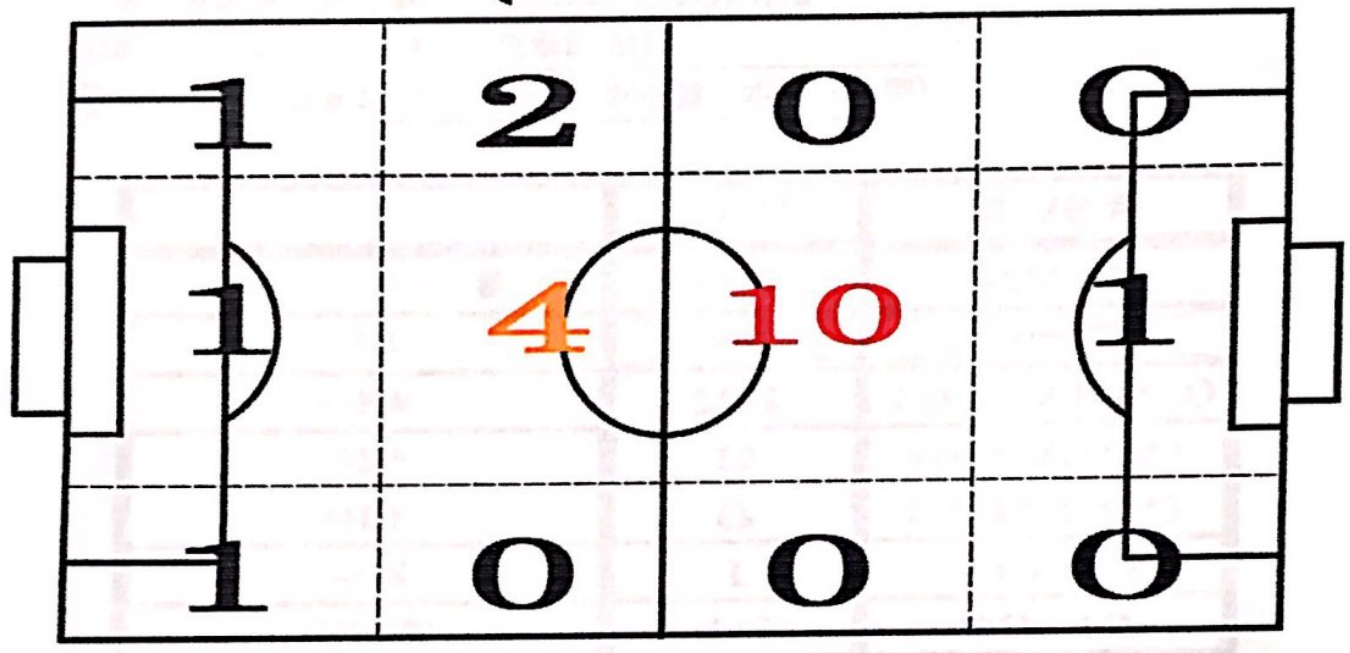
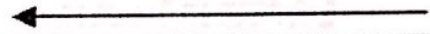
《 後半 》



→ パス成功 - - - - -> パス失敗 → シュート → FK

図2 中田英寿選手パスキャッチ位置

《 前半 》



《 後半 》

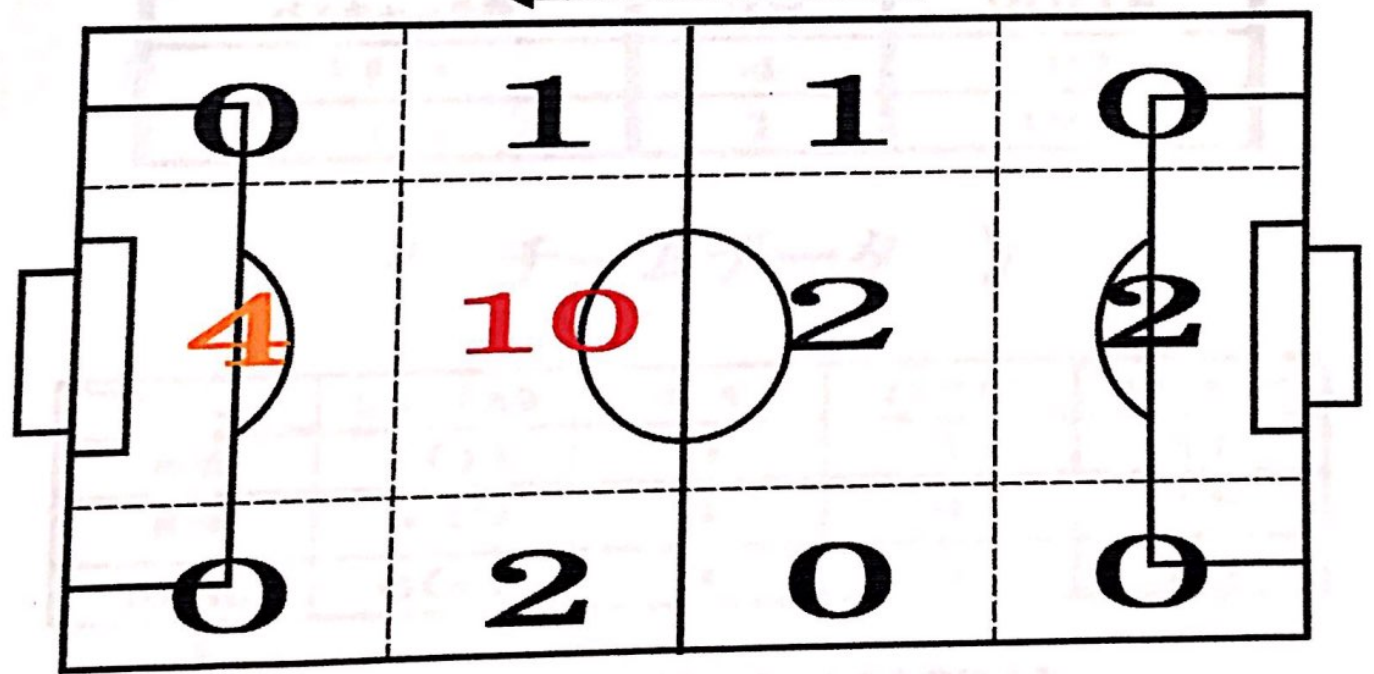


表 中田英寿選手個人データ

《 2003年 》

対 カメルーン 戦 11/19 『親善試合』

①ポジション ⇒ 攻撃的MF

②フォーメーション⇒ 4-4-2(中盤：ボックス型)

	TOTAL	前半/後半
総ボールタッチ数	97	52/45
パス	 	
⇒FW	26	10(4)/17(9)
⇒MF	9	6(3)/3(2)
⇒DF	5	3(3)/2(2)
⇒GK	1	1(1)/0
パス総数	42	20/22
パス成功数	24	11/13
パス成功率	57.1%	55.0% /59.1%
パスキャッチ数	38	20/18
ドリブル	4	3/1
シュート	1	0/1

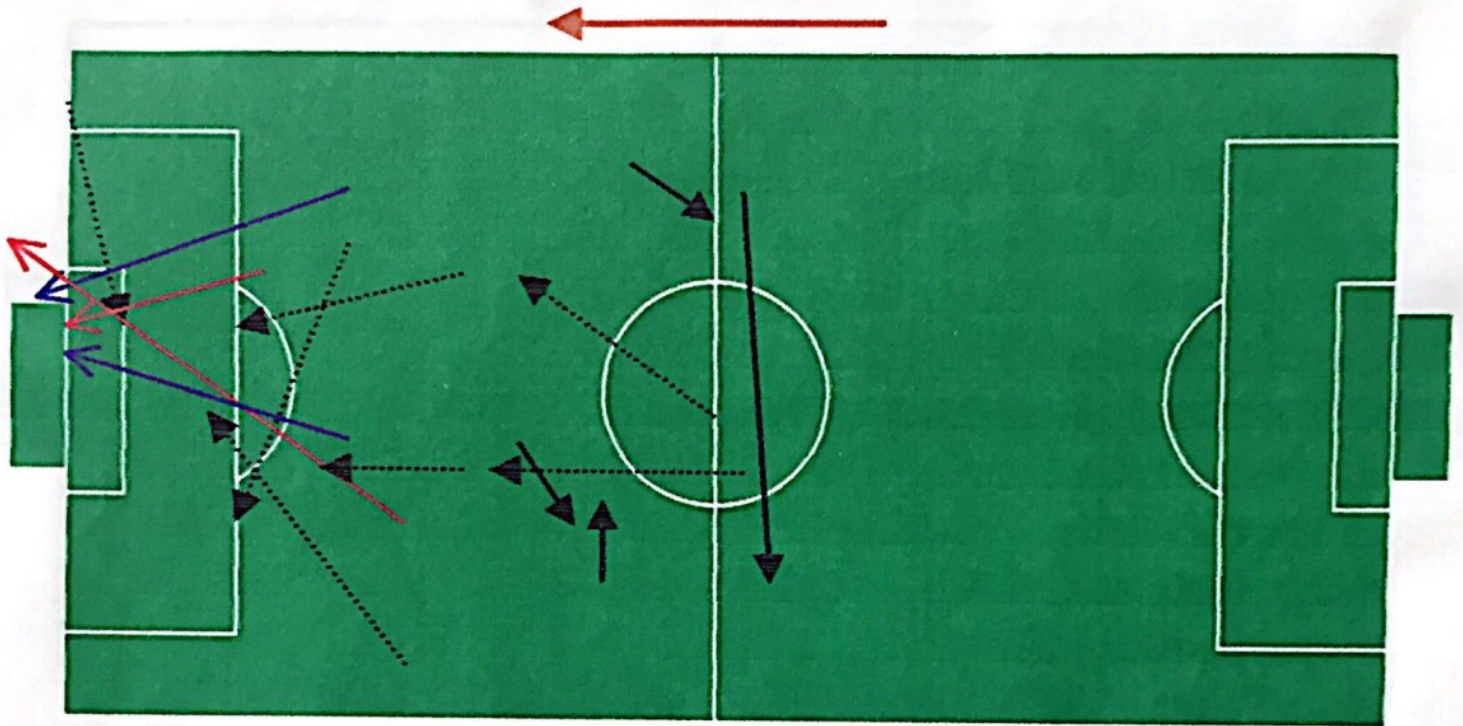
《 チームデータ 》

	シュート総数	コーナーキック	オフサイド	フリーキック
前半	1(1)	0	1	11
後半	5(3)	3	4	18
TOTAL	6(4)	3	5	29

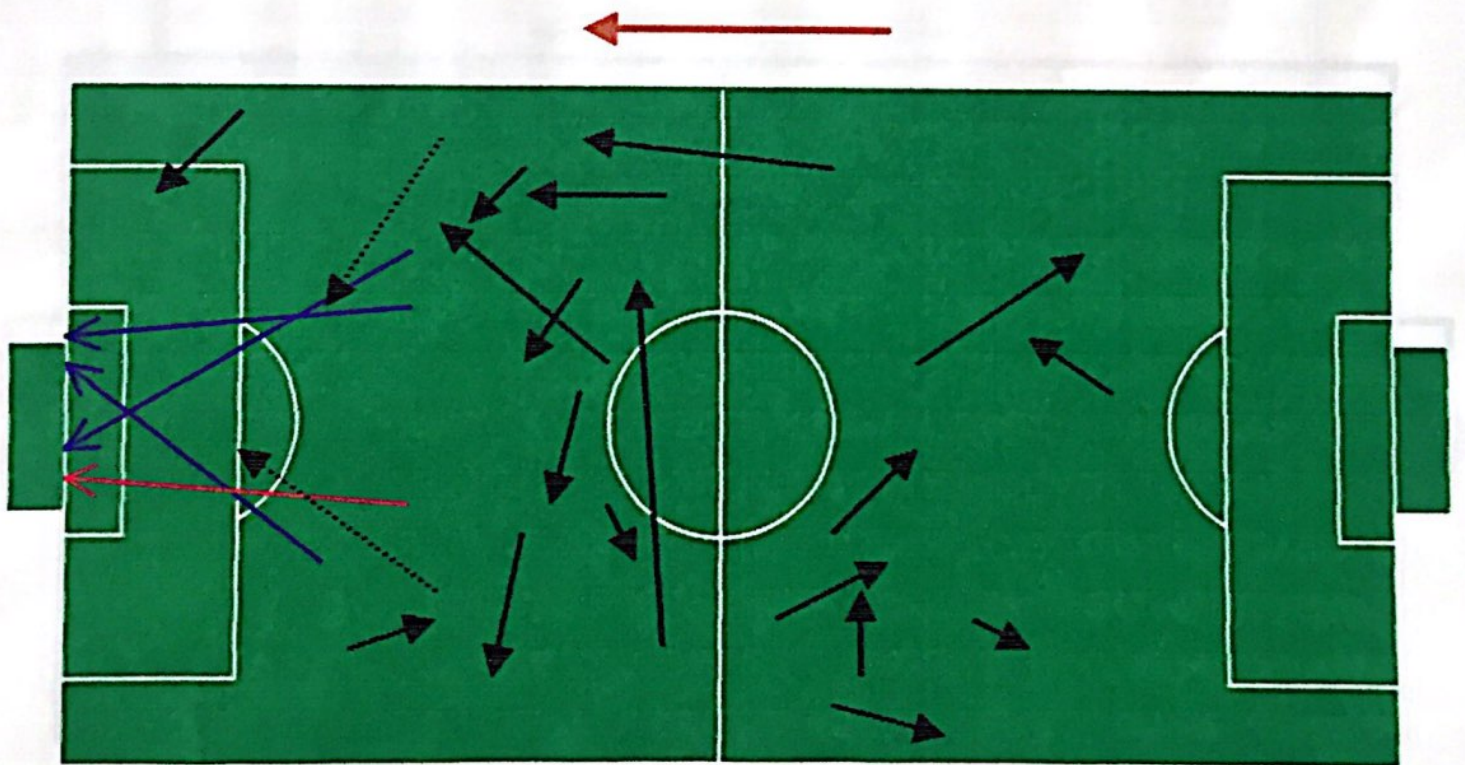
※ 括弧内は、シュートが(ゴールの)枠に入ったのを意味する。

図1 中村俊輔選手パスデータ

《 前半 》



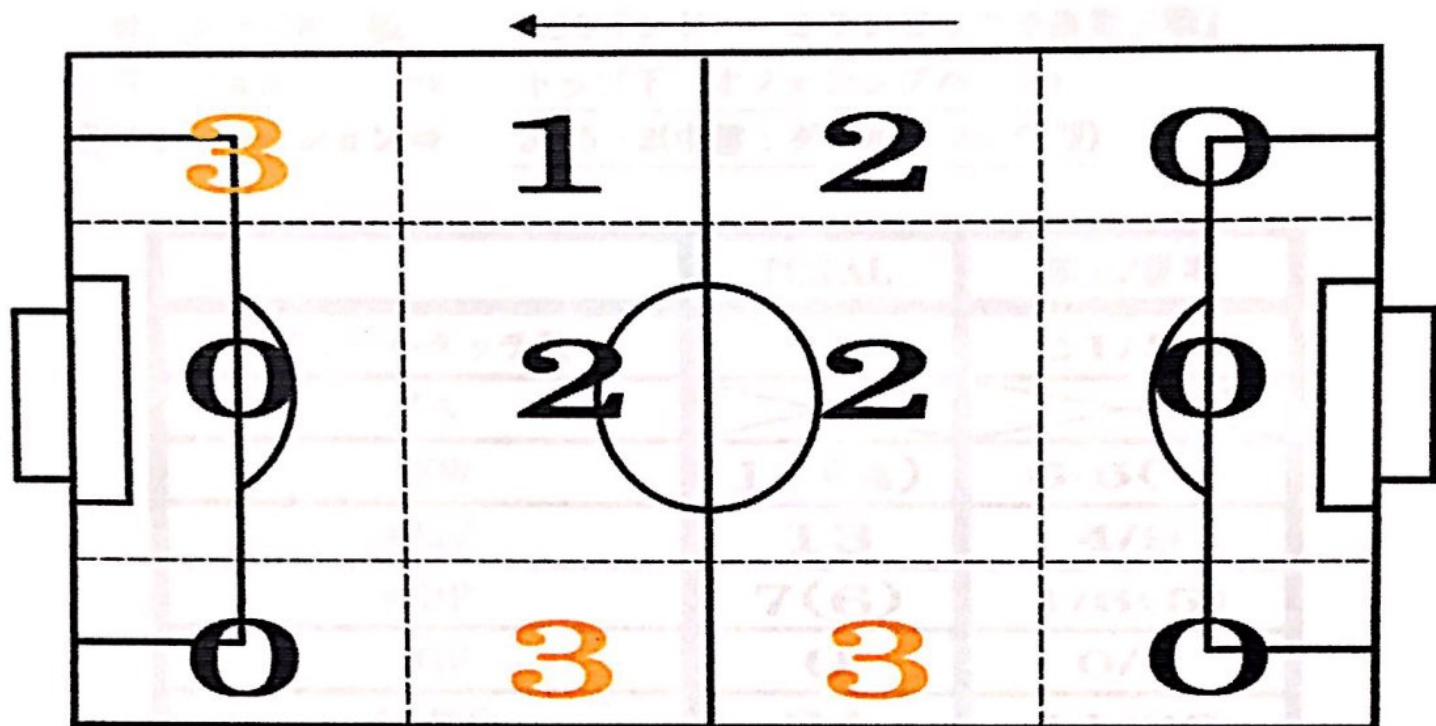
《 後半 》



→ パス成功 → パス失敗 → シュート → FK

図2 中村俊輔選手パスキャッチ位置

《 前半 》



《 後半 》



※ 括弧内は、シュートが(ゴールの)枠に入ったのを意味する。

表 中村俊輔選手個人データ

《 2000年 》

対 ブラジル 戦

9/20『シドニーオリンピック予選第三戦』

①ポジション ⇒

トップ下 (オフエンシブハーフ)

②フォーメーション⇒

3-5-2(中盤：ダブルボランチ型)

	TOTAL	前半/後半
総ボールタッチ数	56	21/35
パス	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX
⇒FW	11(4)	6/5(4)
⇒MF	13	4/9
⇒DF	7(6)	1/6(5)
⇒GK	0	0/0
パス総数	31	11/20
パス成功数	22	4/18
パス成功率	70.9%	36.3% /90%
パスキャッチ数	37	14/23
ドリブル	13(7)	6/7(6)
シュート	3	2/1

《 チームデータ 》

	シュート総数	コーナーキック	オフサイド	フリーキック
前半	4(1)	5	1	3
後半	6(2)	8	1	4
TOTAL	10(3)	13	2	7

※ 括弧内は、シュートが(ゴールの)枠に入ったのを意味する。

[考察]

結果から、

	中田英寿選手	中村俊輔選手
図 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前線につながる縦パスが多い ・ ロングパスが多い ・ 横パスが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なエリアへパスを供給している ・ ショートパスが多い ・ 横パスが多い
図 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的中央でのゾーンでプレーしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的両サイドに流れてプレーしている ・ 様々なエリアでボールを受けている
表	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボールタッチ数が、中村に比べ倍近く多い 2. FW へのパスが多い 3. 後方へのパスが少ない 4. 前・後半での「パス総数・タッチ数」が安定している 5. パス成功率が 90 分間通して安定している 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボールタッチ数が、中田に比べ少ない 2. MF へのパスが多い 3. ある程度均等にパスを供給している 4. 前・後半での「パス総数・タッチ数」にばらつきがある 5. パス成功率が後半良くなっている

以上の結果をまとめると、

「中田英寿選手」

⇒比較的多く中央でポジションを取り味方から多くパスを受けて、前線へのパスやスルーパス、長短織り交ぜたパスで攻撃のリズムを作り出して、前・後半ともに安定したプレーをしていることがわかる。

それは、イタリア・セリエAでの激しいディフェンスを常日頃受けて鍛え上げた体幹の強さが、基盤になっていると考えられる。中盤の中央では、激しいプレッシャーを受けるが、セリエAで鍛えられたボディバランス・高い身体能力・倒れることのない下半身の筋力の強さ・背筋をピンと伸ばした姿勢でプレーする視野の広さ、そして、チームメイトの信頼度の高さなどが、このようなプレーができる要因になっているのだと考えられる。

「中村俊輔選手」

⇒比較的高範囲のゾーンでポジションをとり、ショートパスでリズムを作ったり横パスでリズムを整えたり、サイドに流れて起点を作ったりして、様々なエリアで流動的に動き、後半は前半に比べ抜群にパスの成功率が上がり、試合の中で修正し安定したプレーへ代わっていったことがわかる。

オリンピック代表で彼は左サイドで起用されることが多く、今回のブラジル戦のポジションであるトップ下でのプレーはあまり試されていなかった。つまり、不慣れなポジションであったためだと考えられる。それが、前半に顕著に数字でも現れている。しかし、彼の良いところは順応性が非常に高いということである。後半のデータが、それを現している。後半のパス成功率は、中田選手と比べても非常に高いことがわかる。

それは、彼が持っている資質つまり、ファンタジスタと呼ばれているだけの優れたパスセンス・卓越した技術・巧みなドリブルなどが、こういうプレーを発揮できる要因になっているとも考えられる。

攻撃的MF（オフエンシブハーフ）というポジションは、名の通り中盤のゾーンで攻撃的にプレーするところであり、よく二人が世間一般で評価されていた『トップ下』という観点から、この試合のパスデータ（図1）・ボールタッチ位置（図2）で分析してみると、中田選手と中村選手は全く違うタイプであることが考えられる。

トップ下とは、2人のFWの後方に位置しているのが基本的で、中田選手は後方の中央にポジションをとることが多いのだが、中村選手はサイドに流れていることが多くトップ下にあまりいないことが分かる。つまり、中田選手の場合は、FWへのサポートやスルーパスを通し得点機を演出したり、自らも高い得点能力があるので高い得点意識を持ちながらプレーしている『司令塔かつ第2のFW的』タイプであると、考えられる。次に、中村選手の場合は、サイドに流れて起点を作ったりショートパスでリズムを作ったりする『ゲームメイカー的』タイプであると考えられる。

[まとめ]

以上、今回の実験結果から、チームの監督はもちろん、戦術・フォーメーション・ポジションによって、選手に与えられる役割は違うことが分かった。この試合における二人のトップ下としての役割は、中田選手が『司令塔かつ第2のFW的』タイプで、中村選手が『ゲームメイカー的』タイプであることが分かった。

[参考文献]

- ・ サッカークリニック ベースボール・マガジン社
2003年8月号P. 13~16